

長崎検定塾
～もっと長崎ば知ろう～





塾長 小岩 寿樹

■塾長コメント

—昨年5月から、長崎検定塾を始めて2年が経過しようとしています。東京の人たちに長崎をPRしようと思い、そのためには長崎をガイドできるだけの知識が必要と始めた塾でした。1年目は9割が長崎出身者で占められていた塾生も、今年度生は商工会議所の助力もあり、3割の方が長崎に何も関係していない人で、本当の長崎ファンが集まりました。

やはりあの街は(東京にいと“この街”ではないのです)「ただ者ではない」という事が十分身に沁みました。

それから、長崎の仲間との会合でも、塾での知識が大変有効で、コミュニケーションのツールとしては大変役に立ちました。これほどの奥深い歴史や文化が長崎の街にあったという事がうれしくもあり、誇りでもあります。実際私も検定1級を受験しましたが、受験者が昨年より増えていたことにうれしさを感じています。そして、その受験生たちとの会話の中で、そのほとんどが長崎出身者ではないという事も驚きでした。

合否は別にして、今後もこれは「ライフワーク」として“学び”を進めて行こうと思っています。

せっかくの機会を頂いた訳ですから、今後はこのネットワークを駆使し、かつて活動していたグループや独自の活動をしているチームとも連携を図り、長崎市の主催するイベントの一助となれるよう仲間を結集したいと思います。

■塾の目的

長崎の歴史や文化、観光やグルメを勉強し、東京に住む長崎出身者以外の方に長崎をPRできるよう、「THE NAGASAKI」を勉強し、何を聞かれてもなんでもすぐに答えられるようになりたいと思って、この塾を立ち上げました。

また、東京からの目線で長崎を語り、その中に長崎のこれからを見つけ、それらのPR手法を討議し、長崎ファンや旅行リピーターを増やして行くことを目指しました。

そのためには、やはり普段から長崎のことを学習・研究する姿勢が必要だと思っています。その学んだことをいろいろな場所で語る「語り部」あるいは「伝道師」になり、より高みを目指すことを目的としました。

そうすれば、長崎はよりレベルアップした街になると信じています。観光客がいつか東京や京都を抜くことを夢見ています。

■塾の研究・活動内容

合計4回の「セミナー」と1回の「視察研修」を開催しました。

講師は、長崎から3名を、東京で1名を招き、その分野の詳しい話をさせていただきました。

初回は、塾生自らが、長崎検定試験の出題された結果の分析をおこない、来年の試験に備えるための講座を開催しました。また、テ

キストにない問題についても、昨年の塾生が自分の学習の中で考案した「問題集」で勉強しました。

今年は、商工会議所のご協力で、昨年度の受験者が多く入塾し、長崎関係者以外の塾生が増え、懇親会の折には、身内話だけではなく、歴史に裏打ちされた話題が出るなど、大変な進歩を見せました。

突然にコンセプトが変更された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の話からスタートし、検定試験の特別テーマとなった「唐人屋敷」、それに、「長崎くんち」では、正月からお祭りが終わって完全に行事が終わるまでの経緯がとても興味深く塾生に伝わりました。

初めての「視察研修」では、長崎に関係のある「人物」の功績を辿る旅を行いました。江戸時代は天領であった長崎が、なぜ東京にないのか？今でも不思議に思っていますが、確かに城下町ではないので、東京に殿様の屋敷があるわけでもなく、探すのが結構大変でした。しかし、探してみると、その人物や事件が想起できて、町歩きの楽しさが発見できました。

東京の街も“さるく”のが良いのでしょう。平和祈念像の作者・北村西望のアトリ工跡、26 聖人記念館や教会を設計した今井兼次、それに孫文の活動を支援していた梅屋庄吉、それらの方々の偉業を見られて大変有意義であったと思っています。

また、せっかく研究したのに眠らせて置く手はないと思い、その後もその場所を訪れ、成果物の中に「NAGASAKI IN TOKYO」として、入れることとしました。

■塾活動の成果■

今年度の塾生は長崎出身者以外の方が多く、長崎を PR するという目的に大きく近づけたと思っています。また、「長崎大好き」という意識を、塾生全員で共有できた事が、良かったと思います。

セミナーや視察研修でも、長崎に関する知識や情報は、暖かく受け入れられ、参加した塾生も満足して帰りました。

また、学べば学ぶほど、新しい知識も増え、疑問も増えて行きましたが、それらも互いの情報共有で解決していきました。

今年も、東京の墨田区両国で「長崎検定試験」が実施され、塾生が受験したところ、1 級の発表はまだですが、新たに塾生の 2 級合格者 2 名、3 級合格者 1 名が誕生しました。

これからも長崎を学び、いろいろな場所で長崎を誇れる「伝道師」として活動できるようにしていきたいと思っています。

長崎検定塾 ～もっと長崎ば知ろう～ 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 28 年		
4 月 18 日(月)	長崎県産業支援センター	「長崎検定塾」スタートに向けての打合せ
6 月 18 日(土)	日比谷市政会館	第 1 回セミナー「長崎とキリスト教」
7 月 9 日(土)	日比谷・松本楼	「視察研修」打合せ
7 月 19 日(火)	長崎市東京事務所	「視察研修」打合せ
9 月 1 日(木)	長崎市東京事務所	「視察研修、および次回セミナー打合せ」
9 月 10 日(土)	井の頭自然文化園他	第 1 回視察研修「北村西望のアトリエ」「今井兼次の設計作品」等視察
10 月 29 日(土)	日比谷市政会館	第 2 回セミナー「唐人屋敷と中国文化」
11 月 19 日(水)	日比谷市政会館	第 3 回セミナー「長崎くんち」
平成 29 年		
1 月 21 日(土)	日比谷市政会館	第 4 回セミナー「長崎の民話と伝説」
1 月 29 日(日)	国際ファッションセンタービル	長崎検定受験。1 級 3 名、2 級 2 名、3 級 3 名が受験。
3 月 20 日 (月・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、クイズなどを実施

第1回セミナー報告

開催日：平成28年6月18日(土)

講師：岩波智代子さん(智書房代表取締役・長崎楽会理事長)

参加者数：塾生24名、聴講生他3名

【長崎とキリスト教】

- ・江戸時代の浦上村のキリシタンの状況。「帳方」「水方」の役割等。特に、暦を読む帳方の役割は大きかった。
- ・信徒発見時の杉本ゆりの発言内容とは？
- ・浦上一番崩れ～三番崩れの概要と四番崩れの詳細。二番崩れは資料が残っていない。→役人が破棄した？
- ・新政府の長崎府知事の沢 宣嘉(さわ のぶよし)が着任しても、キリシタン弾圧は続いた。→教徒を各地に移送。詳しい資料が「26 聖人記念館」にある。
- ・浦上天主堂建設の経過。浦上庄屋の高谷家屋敷の跡に、1895年から天主堂の建設が始まる。
- ・1915年に双塔なしの浦上天主堂完成。斎藤茂吉の句が残されている。
- ・1924年、双塔がついた天主堂が完成したが、1945年、原爆で破壊された。



第2回セミナー報告

開催日：平成28年10月29日(土)

講師：原田博二さん(元長崎市立博物館長・長崎史談会会長)

参加者数：塾生19名、聴講生他5名

【唐人屋敷と中国文化】

- ・深堀(戸町浦)が、最初の中国貿易の基地だった。
- ・華僑は、最初は稲佐、水の浦、立神に住んでいて、そこに墓がある。
- ・その後は、奉行の許可で「住宅唐人」となり、日本に帰化して日本姓に変える。馮→平野、陳→穎川、徐→東海 等
- ・唐通事として寺町皓臺寺(こうたいじ)に、陽家、高木家、高島家、薬師寺家の墓がある。
- ・三福寺とは「興福寺」「福濟寺」「崇福寺」のことで、出身地別に寺を建てた。
- ・唐寺の特徴として、媽祖を祀った媽祖堂(道教)とお釈迦様を祀った雄宝殿(仏教)があるが、聖福寺には媽祖堂がない。
- ・新地は倉庫跡で、水門が四つ。梅香崎付近には、とも綱を結ぶ石が残っている。
- ・隣接する薬草園だった館内を橋でつないで、唐人の住まいとした。
- ・隠元禅師を招聘して黄檗宗(おうばくしゅう)を広める。隠元は将軍・徳川家綱に保護され、京都に黄檗山万福寺を設立。
- ・定高仕法(さだめだかしほう)で積戻りが出たり、正徳新令(しょうとくしんれい)で新牌(幕府が発行する許可証)が制度化されるなど、次第に貿易に制限がかかり、密貿易が増えていく。
- ・明治4年(1871)まで清国との国際条約は結ばれず、正式な国交はなかったが、経済交流は行われ、「風説書」も唐通事により書かれた。



<第3回セミナー報告>

開催日：平成28年11月19日(土)

講師：土肥原弘久さん(長崎学研究所所長)

参加者数：塾生19名、聴講生他4名

【長崎くんち】

第一部：諏訪神事概論、第二部：今年の奉納踊。

・「くんち」はあくまでも諏訪神社への奉納行事。

・「年番町」、「踊町」は7年に一度。「年番町」は「踊町」から4年目に務める。

・「神輿守町」は旧長崎村の各郷が6年に一度。

・10月1日～13日が御大祭、7日～9日が御例大祭。引継ぎ式は12月1日。

・正月行事もあるが、「くんち」が実際動き出すのは6月1日の「小屋入り」から、10月13日の「直会神事」で終了。

・奉納は「傘鉾」「奉納踊」「シャギリ」の順。「奉納踊」の中には、「本踊」「曳物」「通り物」「担ぎ物」「舞物」等があり、「傘鉾」は各町の特徴を良く表している。

・「庭見せ」での「御花」の風習。「庭先まわり」の呈上先での実施の実際。そこでの「御花」の風習。

・掛け声「もってこ〜い」「しょもうやれ〜」「ふと〜まわれ〜」のタイミング。

・後半は今年の「踊町」の様子を説明。「踊り」はプロに演出を依頼し、「担ぎ物」は担ぎ手の確保で、1千万単位で経費がかかり、平均は一町あたり3千万円。

・今年話題になった上町の「ココデショ」は36人担ぎだが、控えを入れ実際は総勢59人の陣容。



<第4回セミナー報告>

開催日：平成29年1月21日(土)

講師：山口広助さん(料亭「青柳」・長崎さるくガイド・長崎探訪レポーター)

参加者数：塾生21名、聴講生他4名

【長崎の民話と伝説】

・セミナーテーマは「長崎の民話と伝説」ということで、長崎に残る民話・30件を紹介。

・「幣振坂(へいふりざか)」は3カ所あり、大音寺と皓臺寺との間の坂は有名。他にも延命寺と長照寺の間の坂や中央公園から立山に向かう坂も幣振坂。

・上町には、火除け地蔵がある。原爆投下前の3月にお告げがあり、永昌寺から今の場所に移したところ、原爆の火災がその手前でとまったという伝説がある。

・丸山の梅園天満宮の創建話では、安田次右衛門という人が刃物で刺された時、本人が無傷で、祠の天神様が代わりに血を出していたため、「身代わり天神」として祀られたという逸話が紹介された。



- ・26 聖人の殉教地について、現在の定説を覆す話があった。過去の文献から殉教地は本蓮寺より南側でなければならない？
- ・聴いている塾生も新たな理論にとっても感動した。

「第1回視察研修」開催

東京にある“長崎”

開催日：平成28年9月10日(土)

視察場所：井の頭自然文化園、早稲田大学、日比谷松本楼

ガイド：亀田康平さん(早稲田大学創造理工学部建築学科)

講演講師：小坂文乃さん(日比谷松本楼副社長・梅屋庄吉のひ孫)

参加塾生：15名

<視察内容>

【井の頭自然文化園内 北村西望アトリエ跡】

- ・参加した塾生のほとんどは「東京で平和祈念像の原型が観られる」ということを知らなかった。
- ・西望は長崎市からの依頼を受け、平和祈念像を制作するためにこのアトリエを建てた。
- ・「石膏直付け法」を用いて、鑄造ブロックを104個に分け制作。
- ・木組み→竹アンペラ張り→スタッフ塗り→原型完成という手順で作られたことが分かった。



【早稲田大学内 坪内逍遙演劇博物館、會津八一記念博物館】

- ・26 聖人記念館と聖堂(聖フィリッポ教会)を設計、制作したのは今井兼次。
- ・今井兼次について、早稲田大学の創造理工学部で建築を勉強している亀田康平さんに建物とともに、今井兼次の人となりの説明してもらった。
- ・今井兼次のデビュー作が早稲田大学内の「會津八一記念博物館」で、1925年建築。26 聖人記念館の37年前。
- ・今井兼次が、建築の勉強のためヨーロッパに渡ってアントニオ・ガウディの影響を受け、聖フィリッポ教会の尖塔のあのデザインになった。



【日比谷松本楼にて講演会】

講師：小坂文乃さん(日比谷松本楼の副社長・梅屋庄吉のひ孫)

- ・梅屋庄吉の偉業が最近になって分かったのは自分の為したことを口外してはならないという遺言のため。
- ・松が枝の香港上海銀行長崎支店跡の建物の

中の「梅屋庄吉博物館」オープンに関しての裏話などを披露。

- また、孫文の革命を助けた梅屋庄吉の実際の活動の話があった。
- 困った人がいたら黙ってられないのは「長崎人気質」との発言。
- 文化大革命の時でも、周恩来(しゅうおんらい)の指示で上海の庄吉像は破壊されなかった。



活動を終えて

1634 年が、長崎にとっていかに重要な年であるか知っているだろうか？あと 17 年後、2034 年には、長崎の街も、400 周年の大きなイベントを開催することになるだろう。

その年に何が起こったのか？キーワードは「出島」「くんち」「眼鏡橋」。

「出島」は 1634 年に造成が始まった。

「くんち」は、その年に高尾と音羽の踊りが奉納されてお祭りが始まり、そして、その年に黙子如定(もくす によじょう)が「眼鏡橋」を掛けた。

このような知識はすべて塾で教えられたもので、現在の長崎の観光や文化という 3 次元現象を、歴史という切り口で 4 次元にくれた。

当然、私が育った長崎の街は過去であり、すでにその中に独自の文化を内在している。その一つ一つを吸収することで、新たな発見へと進む、それらの体験は、私の長崎への見

方を大きく変え、「長崎への恩返しをしたい」という大それた発想を笑い飛ばしているかのようであった。

長崎の持つ文化は、大変奥深く、江戸時代唯一の外国貿易ができる街として、ユニークな歴史を歩んできた。また天領であったため、城下町にはない独自の町人文化が生まれ、とても温かな民主的とも言える発展をしてきた。

それらの事実を縦糸に、その当時の人々の動きや思いを横糸にして、長崎は大きく発展して来たのであろう。

そのような長崎を東京で PR したいという願望は、ずいぶん前からあったが、なかなか行動に移せないまま時間が過ぎて行った。

一昨年、同郷の知人たちからの勧めもあり、この企画に申し込み、2 年間の活動に専念できたことは、大変うれしく、また楽しいことであったが、それよりなにより、この塾に参加してくれた塾生の満足の言葉にとっても満足している。

今後も、長崎市が開催するイベントに参加したりして、長崎の PR を私のライフワークとしたいと思っている。

また、目指すと宣言していた“長崎を語る伝道師”に一歩でも近づけるよう、そして目標の検定 1 級を取得できるよう、これからも、まだまだ努力するつもりである。

■塾生のコメント

末吉正宏さん

一昨年、東京の大田区で長崎市長と大田区長とのフォーラムがあり、我が南山高校の後輩に誘われ、興味津々で参加しました。その時の特別講演をしたのが長崎から来られた原田博二さんで「みなさんもどうぞ」と、長崎検定をお勧めになっておられました。

私もその気になり、すぐに長崎商工会議所に電話して日程等を聞き受験をすることを決め、まず準備に、四ツ谷の長崎アンテナショップへ行き、長崎検定テキストブックを買い、心の準備を始めました。

もともと長崎人だからという甘い考えで、勉強ではなく、ただ目を通す感じで2級、3級を簡単に受験しました、勿論3級は楽勝だと自負しておりましたら、落ちてしまいました。非常に残念でなりませんでした。

復習するつもりでなく、テキストを真剣に見たら、全く奥が深く歴史の連携を感じました。腰を据えて勉強していればこんなことにはならなかったように思いました。

その後、長崎検定塾との出会いもあり、お陰様で塾生になれました。なってビックリしたのは“ボランティア活動保険加入カード”を戴いたことです。

私も銀座を拠点にした“異業種交流会”を30年程続けておりますが、そこまでは考え付きませんでした。

やっと皆さんとお知り合いになったのもつかの間、小岩さん率いる長崎検定塾は今年で終わりとの事、非常に残念です、イレギュラーでも構いませんが、もう少し続けて頂けないでしょうか、よろしくお願いします。

これからも長崎の知らなかったことを皆様に教えて頂きたいです。

柴田みどりさん

異国情緒たっぷりの長崎は不思議の街「和華蘭」街でした。

雑誌に載っている名所旧跡が、街のぶらぶら歩きで素敵な発見につながる事が魅力と思っています。

近頃では、「ここが埋立地か？」とか、「この石垣が境目か？」とか散策する目にも、熱が入って来ました。歴史探訪することにより、深く想像力を広げるため、長崎塾に参加致しました。

講師の方々の教室での専門知識の展開は、歴史のこんがらがった私の頭の中で、ゆっくりと解かれて行くのが楽しかったです。

東京での、長崎ゆかりの人物を訪ねて、平和祈念像作者・北村西望のアトリエを見学。26 聖人記念館、聖フィリッポ教会設計の今井兼次さんの建築物の見学。日比谷松本楼での孫文と梅屋庄吉との長崎の講義を小坂文乃さんから受けたりしました。

塾生との親睦会での長崎弁の伝授は、耳に馴染みがなく、未だに覚えきれていません。また、長崎の美味しいもん談義に花を咲かせました。

塾生の皆さんの郷土を愛するパワーに洗礼を受け帰ってきました。

「坂の街」「海の街」「中国文化」「居留地や出島のヒストリー」「8月9日の記憶への誓い」など、まだまだ学ばなければならない事がたくさんあります。

今後も、私に長崎の魅力を伝えてもらい、「長崎の応援・サポーター」となり、ますます頑張っていきたいと思っています。

また、新しい長崎学も楽しみにしております。

長崎検定塾

塾長	小岩 寿樹				
1	秋山 佳子	21	成田 花緒里	41	
2	石井 順	22	林 誠二	42	
3	市原 実	23	半田 弘美	43	
4	尾垣 聡子	24	伴野 芽衣子	44	
5	小金井 宏之	25	藤田 茂	45	
6	近藤 治彦	26	古谷 奈緒子	46	
7	坂本 貞好	27	前田 利夫	47	
8	柴田 みどり	28	松尾 一昭	48	
9	末吉 正宏	29	松尾 陽子	49	
10	園 信二	30	馬渡 賢一	50	
11	田尾 正行	31	溝口 雅子	51	
12	高崎 祐子	32	山本 郁子	52	
13	高山 美枝子	33	與賀田 直哉	53	
14	竹村 靖久	34	吉開 友子	54	
15	田中 麻紀	35	渡辺 浩介	55	
16	田中 洋子	36		56	
17	辻川 智子	37		57	
18	藤馬 寛剛	38		58	
19	豊島 正伸	39		59	
20	生井 久子	40		事務局員	東京事務所 北坂 信太郎